

# 「穏やかに、明るく、前向きに」僕は生きていくこうと思つた

神戸へゆうゆうの里 林 宏恭様(81歳)

令和4年2月 一人入居

## ワンゲル部で培った粘りで仕事も全力で頑張りました

大学では厳しいことで知られるワンダーフォーゲル部に入部しました。雪山登山では2日〜4日間が必要な装備は、スキーも含めて一人当たり60kg位になり、その荷物を担いで登るには体力づくりが不可欠です。2年生から4年生の間、毎年行った青森・八甲田山の雪山登山ではマイナス28度になる雪道を踏破、生死をかけるよ



ワンダーフォーゲル部の雪山登山の思い出(後ろから3番目が林様)

うな体験をしました。仲間と一緒に頂上に立った時の感動は何事にも変え難いものでした。

卒業後は大同酸素という会社に入社。28歳で岡山支社開設の社命を受けてから、ゼロから地道に人間関係をつくり粘り強く営業に励みました。支社は中国地方で実績を上げて、私は若くして近畿支社長に就任することができました。これも山登りで培った力のおかげです。60歳定年後も顧問として75歳まで活躍することができたのです。

## 脳梗塞で倒れた家内のために、できることは全てやった

家内とは富山の立山に行った縁で知り合いました。彼女は華道が好きで、免状資格の「華督」を持っていました。自身も花市場に勤めながら花の勉強をするぐらい熱心でした。華展に出展する松は樹形もまっすぐ育ったものではなく、海岸沿いの海風にさらされて力強く育った松を好み、仕入れによく車で一緒に出かけたものです。着物で出かける催しがあるときは必

ず送迎をしました。妻との思い出は華道とともにあったかな。

家内は48歳で脳梗塞になりました。家内の介護のために責任ある役職の辞任を申し出たことがありました。仕事と両立するため日中は家政婦を雇いました。家内が胃ろうを受けることになってからは、彼女の健康を取り戻したいと、僕が「おもゆ」を作り世話をし、胃ろうを外すことができました。彼女は誤嚥性肺炎で亡くなりましたが、僕は最後まで家内のためにできることをやり尽くしたつもりです。

## もつと早く、神戸へゆうゆうの里を知っていたら回り道をしないで済んだのに

家内が亡くなり、親族が近くにいないことが不安になり、妹の向かいのマンションを借りて住みました。不安は解消したものの、日ごろの近所づきあいがなく僕にとつては居心地が良くないことに気づき、入居二年でそこを出て、新築分譲シニアマンションに入居しました。そこならオープン時の同年代メンバーと親しく付き合っただけそうだと思うからです。そこでも住んでいるうちに問題を感しました。一つは介護がついていないこと。もう一つは、一緒に入居した人達が同じ様に歳をとって、マ

ンション全体の活力がなくなってきたと感じたことです。

今思えば、神戸へゆうゆうの里を知っていたら、間違いなくこちらを選びました。自然に囲まれた立地や施設の雰囲気、僕の生き方にあっていると感じました。

## 土をいじり、自炊をし、ざつくばらんに付き合える友人をつくる

今は穏やかに安心して暮らしています。土を触るのが好きで、「ふれあい農園」で野菜作りを楽しんでいます。今は春菊ができています。今年の里芋の収穫は少なかつたので、来年はもつと多く作りまです。収穫した野菜を皆さんにあげて喜んでいただけるのも醍醐味です。食事は朝と昼を自炊にしています。料理は得意です。山でもカレーや煮物など作っていたからね。最近ではインターネットでレシピを検索し好きなものを作っています。畑の野菜も使わないとね。自炊すると献立を考え、こまごまと買い物もするので脳のためにも続けたいです。そして自宅にこもりつきりにならないよう、時間があれば外に出かけます。大浴場や食堂、畑などで人と会うと自然と話せるようになります。ざつくばらんに付き合える友人を二、三人はつくりたいな。

